



QOV直結！

～SAP・OCTの測定値のHigh&Low～

日時 2014年6月29日(日) 8:00～9:00

会場 第2会場 アリスアクアガーデン品川

〒108-0075 東京都港区港南2-16-5三菱重工業ビル グランパサージュII 3F



座長

中村 誠 先生 神戸大学 教授

1989年 神戸大学医学部 卒業
 1995年 神戸大学医学部 眼科 助手
 1999年 米国ペンシルバニア州立大学医学部 眼科
 細胞分子生理学教室 Research Scholar

2005年 神戸大学医学部 眼科 講師
 2013年 神戸大学大学院医学研究科 外科系講座
 眼科学分野 教授

自動視野計 (SAP) が算出する視野感度 (感度) はあらかじめ決められた測定点に関連する網膜神経節細胞の「機能障害」を反映している。一方、緑内障で生じる網膜神経節細胞層/神経線維層の「構造障害」が光干渉断層計 (OCT) の進歩により明らかにされてきた。つまり、SAPに認める「機能変化」はOCTで検出される「構造変化」の申し子。

さて、SAPやOCTの検査結果はそれぞれ、「黒と白」、あるいは「赤と緑」などにカラーコードされるが、その元を辿れば、機能と構造の現状を反映した「数値」。だから、「数値」をどのように評価するか？そこで、まず「数値」の現在地を知るために「正常と正常範囲」を、次に正常範囲からの「ハズレ具合」を検証していくのだけれど・・・ここで、ハズレ具合の典型は最高値&最低値。つまり、High & Low !

例えば、視野感度の不均一性の指標であるPSDの「High」は20dB付近、視野障害進行の目安であるMD slopeの「Low」は-0.1dB/年程度、OCTでのGanglion cell厚の「Low」は45μM前後。となると、SAP/OCTの数値の「High&Low」はQOV直結！「数値」は評価があってはじめてナンボ・・・そこで、今回、お二人の気鋭の緑内障研究者にSAPとOCTの「High & Low」についてご講演をお願いした。行き着くところ・目ざすべきはQOV！

SAPのHigh & Low

演者 溝上 志朗 先生 愛媛大学 准教授

OCTのHigh & Low ～SAPとの相関からみえてくるもの～

演者 金森 章泰 先生 神戸大学 講師

第3回日本視野学会学術集会へのご参加には参加登録が必要です。
 2014年6月2日18:00まで早期割引を実施しております。(※以降は当日登録となります)
 ホームページをご参照ください▶ <http://jps.umin.jp/meeting/m-index.html>

第3回日本視野学会学術集会 モーニングクルズス2

SAPのHigh & Low

愛媛大学 准教授 **溝上 志朗** 先生

ご存じSAPには実に多くのパラメータ。視野の重症度や不均一性、そして再現性と変動性、さらには信頼性にいたるまで、多種多様。

でも、実は案外知らないことばかり。

例えば、おなじみMD値、視野悪化によりマイナス側に大きくなる。

ならば、正常値は±1～2あたり？

本講演では、MD値+16.06dBの視野や、PSD値18.85dBの視野を供覧しながら、SAPのハズレ値とは何か、さらには、QOVについて考えたい。



1995年 愛媛大学 卒業

1996年 大阪厚生年金病院 眼科 医員

2005年 愛媛大学大学院 修了

愛媛大学 眼科学 助手

2006年 愛媛大学 眼科学 特任講師

2009年 愛媛大学 眼科学 講師

2012年 愛媛大学 眼科学 准教授

OCTのHigh & Low ～SAPとの相関からみえてくるもの～

神戸大学 講師 **金森 章泰** 先生

OCTによる構造的パラメータは、大きな個人差のため正常域の範囲が広い。OCTの「High & Low」を知ることで、逸脱具合を推測することができるのでは？ SAPとの相関関係を柱に講演したい。



1999年 神戸大学医学部 卒業

2004年 神戸大学大学院医学系研究科 修了

2004年 兵庫県立尼崎病院 医員

2006年 神戸大学 眼科 助教

2008年 カナダモントリオール大学 眼科

病態生理学ポストドクトラルフェロー

2010年 神戸大学 眼科 助教 復職

2014年 神戸大学 眼科 講師